

特集

エコな暮らし、
エコな住まい



山と地域を守るエコ。 地産地消の住まいとは

森林資源が豊富な北東北で、それぞれに個性あふれる木造住宅建築に取り組んできた
岩野年成氏と白鳥顕志氏。建材に地場の木を使う動きが広がりがつつある今、
地産地消の住まいについての考え方と取り組みをうかがいました。

**家づくりで山が元気になる！
地域ビルダーだからできること**

白鳥 今日は五蔵舎さんの家を初めて間近に見て、その設計の細かさに感心してしまいました。建材はすべて県産材なのですか？

岩野 造作材はまだですが、構造材に使っているのは北東北3県の木材です。ここ秋田には秋田スギという銘木があります。果たしてそれだけでいい住まいはできるのか。例えば、梁などにも秋田スギを使う地元ビルダーがいます。確かに使えなくはないけれど、サイズが大きくなってしまったり、材としては少しもろいんですね。使う側としては強度にも責任を負わなければならないので、私としては納得がいかない。近頃の材も使うほうが、適材適所の木づかいが可能なんですよ。

白鳥 北東北3県の木材を使うことにしたのは、どんな思いやきつかけからだったんですか？

岩野 私が考える「いい住まい」のレベルを逸脱しない住宅を、5年後10年後でもつくれるのだろうかと考えたんです。今は秋田のみならず、北東北全体の景気が冷え

C O N T E N T S

<SPECIAL INTERVIEW>

山と地域を守るエコ。地産地消の住まいとは

(ゲスト) 五蔵舎(株) 岩野年成氏 X (インタビュアー) (有)木の香の家—木精空間— 白鳥顕志氏

120p

ECO-FILE.01<性能編> 五蔵舎(株)

**自然素材に包まれて暮らす
強く美しく、居心地のよい家**

124p

ECO-FILE.02<性能編> (有)木の香の家—木精空間—

**地元の木材、自然素材の断熱で、
最後には土に還る家**

126p

込んでいるでしょう。問題になっている山林の荒廃や林業の衰退も、経済の悪化に加えて、外国材の輸入により国内産木材の需要が減少しているためです。こんな状況では、我々が頑張ったとしてもいい住まいを提供できなくなってしまう。この地域で育ち、この地域でお世話になっている者として自先の仕事に汲々としている場合じゃない。たとえ痛みを伴うとしても、地域を良くしていくために、何かしなければと思っただけです。

白鳥 そうですね。私も家づくりを通して、少しでも地域貢献できればと考えているので、地元材を使うようにしています。ただ残念ながら、木材の地産地消を牽引するような元気な地域ビルダーはまだ少ない。一つは多くのビルダーが技術に偏りすぎて「営業」という部分を考えていないため、圧倒的に薄利現場が多いこと。それゆえ住宅デザインも重要視してこなかったので大雑把な家が多いし、ハウスメーカーと同じような家づくりが多過ぎる。五蔵舎さんのようにデザイン的な部分で「おしゃれに見える」「かっこよく見える」という努力を怠ってはいけないと思っただけですね。



秋田市の五蔵舎ショールームで、地場産材利用の意義について語り合う岩野年成氏(左)と白鳥顕志氏





家づくりを通して
少しでも地域貢献が
できればいいですね。



(有)木の香の家 - 木精空間 - 代表

白鳥 顕志氏

[PROFILE]
宮城県栗原市出身。
東北大学工学部建築学科卒。
高断熱住宅技術講習会で講師を務めるなど、技術系の立場から断熱性能を追求しつづける仕事人。
断熱のエキスパート。

**呼吸するよう熱をコントロール。
断熱材も自然派志向で**

白鳥 建材もそうですが、新しい断熱工法にも取り組んでいるとか。

岩野 ええ。一つはドイツ製の木質繊維の外張り材です。これには、繊維に含まれている水分の移動による気化熱で冷えたり、また水分を吸い込んだりという、従来の蓄熱・断熱効果だけではない特殊な熱の移動があるんです。性能も、断熱レベルでは当社の従来の素材とほぼ同等でした。まだ割高ですが、今後、国内でも自然素材を使った断熱材がつけられる

ようになれば、価格的にもいいものが出てくるだろうと期待しています。もう一つは、アルミ製の断熱材ですが、気密施工がいらぬのが利点。計画換気も行つたのですが、熱のロスを加味しても充分な断熱性能が得られるんです。**白鳥** つまりそれは断熱性に加え、吸放湿性も考えているということですか？

岩野 それもありますが、現在の高断熱・高気密工法って、とても繊細な技術ですよ。確かに一番だとは思つけど、気密というシビアさがなくなれば建築予算的にかなり抑えることができる。大昔の家はスカスカで寒かつたけれ

**視野を広げて考えよう。
緩やかな地産地消のススメ**

白鳥 最近、当社へいらつしやるお客様の中にも、地元材にこだわらる方が増えてきています。これも、地産地消という言葉が一般に浸透したからなのでしょう。けれど、秋田の地域ビルダーの状況はどうでしょう？

白鳥 最近、当社へいらつしやるお客様の中にも、地元材にこだわらる方が増えてきています。これも、地産地消という言葉が一般に浸透したからなのでしょう。けれど、秋田の地域ビルダーの状況はどうでしょう？

たんじやないですか。

岩野 すでに数社から問い合わせがありました。どうも地産地消のビジネスモデルと考えているようで。私自身は、この取り組みを通して北東北を豊かにしたいし、北東北の豊かさを生かしたいんです。もともと北東北は森林資源が豊富なのに、今は仕事が減っているために木や山を育てる人がいない。その一方で、木材を外国から買っている。どう考えても変です。もつと文化や資源循環的な見地に立ち、北東北の再生に取り組みたいです。それが結果的にビジネスにつながるような動きになれば、それでいいんですよ。

白鳥 そうでしたか。私たちは地産地消という、一つの県に固執する傾向がありますが、隣県だって距離で考えたら地元みたいなものでもんね。重油をかけて外国から材料を持つてくるよりは、地元近県で良いものに目を向けたほうが断然いいと。それはウッドマイレージという点や、地元の企業にお金を循環させるといふ点から見ても、メリットが多いですね。

岩野 それに、ビルダー側がこれだけ真剣に考えて選択したことが伝われば、エンドユーザーも「長く持たせよう」とか「大事に使おう」といふように、意識が変わっていくんじゃないかと思えます。何より住人が「この家はいい」と10年でも50年でも愛着を持って長く住み続けられるのが一番の理想ですね。愛着があ

**ビジネスモデルとしても、地産地消の
考え方は注目されていますよ。**



五蔵舎(株)
倉主
岩野 年成氏

[PROFILE]

日本大学工学部卒。大手セネコンなどで主に技術畑を歩む。1999年にプロデュース工務店として発足。「長く愛着が保てる家づくり」をモットーに構造・耐久性のみならず高いデザイン性を合わせ持つ高品質住宅をつくり続ける。昨秋からは北東北の銘木を使用する活動をスタート。

続いて、**エコな住宅の実例を紹介**します。

